

## 事業記録 昭和54年度

### 所蔵作品の修復記録

— 昭和54年4月より昭和55年3月まで —

#### 1 ピエール＝オーギュスト・ルノワール

《アルジェリア風のバリの女たち》 1872年

油彩 カンヴァス 156×128.8 cm

P・1959-182

作品状態：前年度、裏打洗浄および補彩等の修復処置を施した後、応急的に保護膜を塗布し、額縁を改修して海外展に貸与出品した。そのため、未処置の保護膜の再塗装仕上げ、および画面周辺部に生じた額擦れを補彩する必要があった。

修復処置：テレピン精油、ミネラル・スピリットを用い、応急的な保護膜を除去。デトランプを用いて画面周辺に生じた額擦れ部分を補彩。セミマット・タブローニスを用いて保護膜塗布。

#### 2 ポール・ゴーガン

《海辺に立つブルターニュの二少女》 1889年

油彩 カンヴァス 92.5×73.6 cm

P・1959-106

作品状態：基底材の麻布地の劣化、絵具層の微細な亀裂、保護膜の若干の黄変および塵埃付着等が観察された。そのため、全面裏打による麻布地および地塗り・絵具層の固定強化、画面の軽い洗浄処置を施すことが必要と認められた。

修復処置：蜜蝋およびダンマール樹脂等の混合接着剤を用いて全面裏打。テレピン精油、ミネラル・スピリット、アンモニア水等を用いて画面洗浄。デトランプを用いて微細な欠損部分を補彩。セミマット・タブローニスによる保護膜塗布。

(以上の修復は黒江光彦氏による。)

## 特別展記録

\* フォッグ美術館所蔵

### ヨーロッパ巨匠素描展

1979年11月3日～12月16日

主催：国立西洋美術館

出品内容：水彩・素描 100点

アメリカの名門ハーヴァード大学附属のフォッグ美術館は、全体の規模としてはボストン美術館やメトロポリタン美術館などの大美術館に及ばないが、その素描コレクションは、メトロポリタン美術館やピアポント・モルガン図書館のそれと並んで、アメリカでは最もすぐれた内容を誇るものである。この美術館の特徴は、ハーヴァード大学の美術史教育の一環として運営されていることで、教授陣がキュレーターを兼務し、学生たちがその助手として働いている。歴代の教授たちは、美術の本質を知るためにはすぐれた作品にじかに接することが最も重要であるとの信念から、西洋美術の各時代を網羅する名品の収集に努めてきた。とくに素描は14世紀の稀少な作品から現代に至る、ほぼあらゆる時代の巨匠による第一級の作品が集められており、現在約3500点を所蔵している。

この展覧会は、そのフォッグ美術館から、マンテーニャ、ミケランジェロ、デューラー、レンブラント、ルーベンス、スーラ、ピカソをはじめ、15世紀から現代までの6世紀間にわたる巨匠たちの素描100点を出品展示したもの。いずれも素描芸術の本質を伝える名品で、これだけ質の高い作品を一時に海外に出すのは、フォッグ美術館として初めてのことであった。



## \*フラゴナール展

1980年3月18日～5月11日

主催：国立西洋美術館・読売新聞社

出品内容：絵画90点、素描73点、版画13点、計176点

(1980年5月24日～6月29日、会場：京都市美術館)

ジャン＝オノレ・フラゴナールは、18世紀のフランス絵画界において、ワトー、シャルダン、ブーシェと並び称された大画家である。彼は、ロココ芸術の特色である享樂的で装飾的な作品を描く一方、自由活潑な精神で生命感あふれる人物画、風俗画や、詩情豊かな風景画を描いて、当時醸成されつつあった市民文化を反映する業績を残すなど、その活動の幅広さは当時のフランス画家の中でも群を抜いている。また時に彼は、19世紀印象派の先駆者ともみなされる。

この展覧会は、ワシントンとロンドンのナショナル・ギャラリー、ルーヴル美術館、メトロポリタン美術館、エルミタージュ美術館等、世界各国の公私の美術館や個人コレクターの好意を得て、日本においてフラゴナールのほぼ全貌を示す最初の展覧会となった。また世界的にも、1921年にパリで開かれたフラゴナール展以来60年ぶりの大きな展覧会であった。

## 講演会記録

### 「ヨーロッパ巨匠素描展」特別講演会

1979年11月10日

〈フォッグ美術館の歴史と特性について〉

ハーヴァード大学教授／フォッグ美術館東洋部長  
ジョン・ローゼンフィールド

(通訳 渡辺康子)

11月17日

〈素描の意味と種類——イタリア画派を中心に〉

東京芸術大学教授 辻 茂

12月1日

〈フォッグ美術館所蔵素描の美術史上の位置〉

前フォッグ美術館長 アグネス・モンガン

(通訳 渡辺康子)

12月8日

〈西洋の素描——北方の作品を中心に〉

東京大学教授 前川誠郎

12月15日

〈ヨーロッパの素描の歴史〉

ハーヴァード大学教授／フォッグ美術館素描部長  
コンラート・オーバーファー

(通訳 八重樫春樹)

### 「フラゴナール展」特別講演会

1980年3月22日

〈ロココ美術における感覚的な自由について〉

美術評論家 中山公男

3月29日

〈ロココの音楽〉

音楽評論家 遠山一行